

**【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】****2025年度 最優秀園****学校法人仙台みどり学園****幼保連携型認定こども園みどりの森**

市街地にありながら、子どもたちが土遊びや泥団子作りを繰り返し楽しむ中から、自らの手で良質な土粘土を発見し、大人の思考を超えた土器づくりや竪穴式住居作りへと発展させています。さらには、より大きな土器づくり、自分たちが作った土器でのスープ作り、縄文時代の生活への興味や関心の深まり、縄文の歌などの表現活動へと、すべてが子どもたちの「やってみたい」から拡がり深まっていく実践は非常にダイナミックであり、独自性と提案性が高く、論文としての完成度という点でも高く評価しました。

土粘土や土器の興味が、熱心に取り組む子どもから友達へ、そしてクラスのみみんなの目的へと変化していく過程の楽しさが、それぞれの子どもの言葉で語られていることも非常に印象深く、同時に、子どもを中心のコミュニティの中で、保育者である大人の「科学する心」も刺激されていることが読み取れます。また、プロの建築家との出会いを通じ、子どもたちは土に帰らないゴミや木材の伐採、さらには人間の幸せとは何かという課題にも直面します。子どもに本質を問う大人の存在と、それを真摯に受け止め、多面的に考え、判断し、課題に向かっていこうとする子どもたちの姿には圧倒されるものがありました。

こうした普遍的な知見にもつながる「遊び」は、子どもたちの本物の体験と、普段から繰り返し行ってきた「ああしてみたら」「こうしたら」という暮らしの感覚の中で培った知恵（暮らしの中の科学）から出現していると思われます。子どもたちの「やってみたい」を「誰に急かされるでもなく」じっくり関わることができる貴園の環境と伝承される文化、および今回の素晴らしい研究の成果を、今後、広く保育・教育界に発信いただけることを期待します。